

「平家の落人伝説を歩む⑥」

錦江町宿利原地区

今月は、「大根占町誌」や宿利原地区の方からの情報をもとに制作しました。

今月は、池田地区の段中野自治会から北西方向に向かい宿利原地区方面へ歩んでみたいと思います。

宿利原地区方面への平家の落人伝説は、あまり記述に残っておらず、確証はありませんが、大根占町誌によると、宿利原地区の落河・大尾・笑喜も平家の落人集落と伝えられています。

また、伝えによると田代地区の大原から逃げ延びてきた落人は、池田の半ヶ石を通り、段中野から宿利原地区の命苦で命運を占い、才原方面から山や谷を越え、逃げ延びてようやく海が見え、笑って喜んだ場所が、現在の笑喜の地名とも伝えられています。

錦江町に限らず、平家の落人伝説が残る場所は、深い山合いの場所や沢などを伝い、狩りをしながら人里離れた場所で暮らしていた記述が多く、地名や字名、記述や伝説を見ても錦江町

内においては、田代地区の大原から入り、池田地区へへて、笑喜へ進んだのではないかと思われます。

宿利原地区に残る伝統芸能である棒踊りもこの地区に住みついた平家の落人が源氏の追討から身を守るため用いられた踊りと伝えられており、現在でも保存会を中心に、同地区の小中学生などが伝承しています。

全国には平家の落人伝説として色々、地域に残っています。苦悩しながらも最後にたどり着いた場所です。笑って喜んだという伝説はありません。

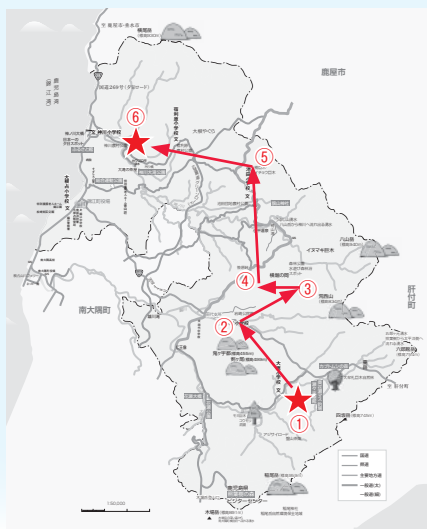
もしかしたら、開聞岳に沈む美しい夕陽と金色に染まった海を眺め、今までに見た事もないような素晴らしい景色に出会え、思わず笑みがでたのかも知れませんね。

これまで、平家の落人について、様々な記述や伝説などから掲載してきました

が、伝説や記述・史跡などと、地名や小字を照らし合わせ現在の成り立ちに繋げてみると、普段生活している地域がまた、新たな目線で見えてくるのではないでしょう。身近な所に地域活性化のヒントが眠っているかもしれません。

これまで、6回に渡り、平家の落人伝説を掲載してきましたが、掲載した以外にも落人伝説や史跡などあげていきたいと思っておりますので情報提供をよろしくお願ひいたします。

来月（広報錦江11月号）からは、錦江町にまつわる島津家について歩んでみたいと思ひます。



大根占古図の一部

錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げて行きたいと思ひます。町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課広報へご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げて行きたいと思ひます。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査に行きたいと思ひますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel 0994-22-3032